

エッセー

## 副学長のサブノート



関東学院大学  
学生生活・IR 担当副学長

小山 巖也



# 遊び心と連携で2018年問題を蹴散らす

### 教職員との会話から

#### 次々生まれる課外の企画

「先生、今年は大根掘りに来ないの  
かって、社長から連絡が来ていますけ  
ど」「行くて答えて。あと、参加  
したい学生を募集して」。ある日の学  
生生活課職員とのやり取りだ。

地元の湘南信用金庫から、神奈川県  
三浦市にある有力農業法人の高梨農園  
を紹介されたのは一昨年度のこと。農  
業体験は今回で2回目だ。2月12日、  
総勢30人で1万株のキャベツの植え付  
けと三浦大根の収穫を行った。

高台にある広大な畑からは、右に相  
模湾、左に東京湾、遠くには富士山も  
望める。普段、土に触れることのない  
学生、教職員、信用金庫の職員が一心  
不乱に農作業。栄養学部の学生が畝間  
を歩きながら楽しそうにキャベツの苗  
を植えている。信用金庫志望の経済学  
部の学生は、作業の合間に信用金庫の  
支店長と言葉を交わしている。「この



三浦市で農業体験をする学生たち

農園に就職させてください」と本気で  
社長に直談判している学生もいる。

収穫した三浦大根はすぐに学食に  
運び込み、日替わりの料理で提供。初  
日は12時過ぎに完売。食べた人に「お  
いしかったですよ」なんて言われる  
と、なんだかとても悔しい。

「日経テレコン21をもっと学生に  
使ってもらいたいです」「就活と絡  
めて大々的にやっちゃおうよ」。こ  
ちらは、図書館職員とのやり取りだ。

こんな会話をきっかけに生まれたの  
が「新聞データベース使い倒し就活  
術!『日経テレコン21』活用講習会」。  
図書館職員が基本操作を説明、就職  
支援課職員が就職活動での活用方法  
を伝授、経営学者の私が記事を解説  
する。カタそうに見えるこの講習会、  
最初は正攻法、徐々に裏技をちらつか  
せ、最後は裏の裏まで見せてしまう  
という刺激的な90分だ。

「日経テレコンの詳しい使い方がわ  
かってよかった。これからどんどん  
使っていきたいです」「すごかった。  
難しく考える必要がないことがわか  
った」「データベースの活用方法以外  
のことも多く学べて有意義でした」と  
学生の反応もすごくいい。4キャンパ  
スで計100人以上が参加してくれた。  
グイグイ引き込まれていく学生の表情  
の変化を見ていると、こちら側もなん

か熱くなってくる。

### 体験と学問をつなぎ

#### 大学の醍醐味を見せる

最近の学生はリアルな体験が極端  
に少ない。だから、いろいろな体験を  
させたい。放っておいても動かないか  
ら、こちらからどんどん刺激する。体  
験を学問とつなげてあげると、それは  
さらに豊かなものとなる。これこそが  
大学の醍醐味だ。大学の、学問の凄さ  
をどれだけ見せつけることができるか  
が我々プロとしての腕の見せ所。

教職員と話していると、それぞれに  
アイデアや問題意識を持っていること  
が多い。しかし、そこから先の具体的  
な術を知らないため、それらは埋もれ  
てしまう。だから、面白い話を聞いた  
らすぐにやる。しかも、特定の部署に  
とどめることなく、部署間に横串をさ  
す。横串が学外まで飛び出すならなお  
よい。シナジーが生まれる。これが「関  
東学院大学ワクワク計画!」の神髄。

学生を元気にしたいなら、まずは教  
職員が明るく、楽しく、元気よく。今  
年も面白いことをやりたいなと思っ  
ていたら、「先生、潮干狩りやりましょ  
う!」なんて話が出てきた。学生、教職  
員にこんな遊び心さえあれば、2018年  
問題など恐るるに足らずだ。